

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|----------------|-------|-------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 312 号 | 氏名 | 尾坂 明美 |
| 学位審査委員 | 主 査 | 中尾 一彦 | |
| | 副 査 | 田口 尚 | |
| | 副 査 | 永安 武 | |
| 論文審査の結果の要旨 | | | |
| 1. 研究目的の評価 本研究は、がん進展に関わる新たな血清マーカーとしてチトクローム C の臨床的意義について検討したものであり、目的は十分に妥当である。 | | | |
| 2. 研究手法に関する評価 悪性腫瘍 232 例、良性腫瘍 25 例を対象に血清チトクローム C を電気化学発光免疫測定法 (ECLIA) により測定し、がん進展度との関連を検討し、さらに胃癌 28 例と大腸癌 37 例については腫瘍マーカー (CEA、CA19-9) と臨床的意義を比較検討したもので、研究手法も妥当である。 | | | |
| 3. 解析・考察の評価 良性腫瘍に比して、悪性腫瘍では血清チトクローム C が有意に高値を示した。チトクローム C が 100ng/ml を超える悪性腫瘍は予後不良であった。CEA、CA19-9 に比して血清チトクローム C は、胃癌、大腸癌の転移、浸潤と最も関連性が強く、癌進展の新たな指標になると考えられた。 | | | |
| 以上のように本論文は癌進展に関わる新たな血清マーカーの確立に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。 | | | |